



La
Maison
vin trop jeune 5

18
禁

おいで響子。

とても古い家だけど
今日からここが僕等の住まいだよ。

この傷ですか？

ここで二人の
新しい歴史を刻んでいこう！

La Maison
vin trop jeune 5

そうだよ
父が柱に刻んでくれた
僕の成長の記録さ。

この家の歴史と共に
育ってきたんだよ。

それは
わずか半年前もこと

はい。

惣一郎さんに手を引かれ
音無家の敷居を跨いだ。

その意味も深く
考えぬまに…

音無家は昔ながらの日本家屋で
其処彼処に歴史を感じる佇まい
を残しています。

長らく女手が無かったせいか
家具や調度品には埃が積もり
余計にそう感じるのかも
しれません。

玄関からもっとも遠い
屋敷の北端に位置するこの部屋は
代々音無家に嫁いで来た女性達が
使っていたと聞きます。

惣一郎さんのお義母さまも
この部屋を使っていたとのこと。

ひと
どんな女だったの
だろう？

ここで何を
過ごして居たの
だろう？

そんな想いを
巡らせていた時

あら？

何かしら？





この部屋のココだけに
出来ているのですが、
黒く煤けた痕が：

それに何かに擦れて
磨り減っている様にも
見えのですが：

古い建物ですし
一度専門家に調べて貰っ
た方が良いのではと



梁に黒ずみ？

雨漏りじゃと？

これです。



どれ、
見せてみる。

ニヤ：



コレは音無家の女達が
刻んだ性の歴史じゃ。

我が家に嫁入りした娘が
流した血と汗と愛液で出来た
痴情の証よ。

お前もココに加わるのじゃ！



なるほど：
たしかに我が家は古く
痛んでいる処も在るじやろう。

じゃがコレは違うぞ
よく見てみる。

えん？



何を
お義
父様

ズルル

ギ!!!

ギ

ギ

ギ

ギ

ギ

め

ギ

ギ

騒ぐでない!

音無の敷居を跨いだ女は
我が家に全てを捧げる覚悟
でなければならん。

音無の次期家長の
惣一郎に嫁ぐとは
そう言うことじゃ

これはその為の儀式
なのじゃぞ。

音無家の家長は代々こうして
自らの嫁を躡て来たのだよ。
惣一郎がやらぬのなら…

肌に食い込む感触を
味わい体にじっくりと
覚え込ませよ！

わしが教えてやるぞ。

お前の体に新たな我が家の歴史を
刻んでやるわい！

ワシの女房、母親、そして祖母が
流した情念が染込んだ縄に
今度はお前の恥汁を吸わせてやる

なんじゃその顔は、
怒ったか？

やはり肉付きの良い体は
この様な緊縛姿が良く
似合う。

結構なことじゃ、
音無家の女になるなら
そのぐらい気丈夫で無ければ
務まらないからな。

じゃがこれからお前は惣一郎の嫁
ではなく音無家の女として生きねば
ならぬ、その為には家長の命令は
絶対服従じゃぞ。

.....

この家では
ワシの言う事は
絶対なのじゃ！

反抗は
許さんぞ！

イツ！

ゆら

ゆら

こんな
結婚
する
為に
やん



良くぞ言った、多少抵抗して貰わんと事には躰甲斐が無いと言うもんじゃ

その為にこう言うモノがある！

本当にそんなモノを使う気ですか？冗談ですよ？

大人しくしている、暴れると肛門を傷付けることになる

いやっやめて！お義父さま許してお願いします。

家長に逆らうと如何なるかを今からその身に教え込んでやるぞ。

先ずは一本！しっかり受け止めるよ響子！

オチウ！

ひびく！

完璧に調教した家内でも
3本が精一杯じゃったのに
4本も呑み込みよったわ
大した娘よ。

じゃがこれで家長に逆らう
と如何いうことになるか
判ったであろう。



わ判りました
もうゆるして
ください
く、苦しい！

我慢せいでないぞ
漏らすで部屋を汚すなど
嫁としてもつての他
じゃ！



いい張り具合じゃ
早く本当の孕み腹に
してやらねばな。

ダメっ！
で、出ちゃう！

堪え性の無い
奴じゃ！

これでも
啜えてろ！

これで暫くは
持つじやろう？

どれ、
後ろだけでは
寂しかろうから前には
コレをくれてやるぞ。

口で射精させてみる、
そうしたら開放してやる。



如何した?
開放されたくないのか?

はあ

それともこのまま
漏らすか
お前次第だぞ

はあ

そうじゃ、
男を喜ばせるのが
女の最も重要な仕事
だと心得よ。

んっ…

ほっ

ぬ

んぐっ!

優等生だったお前だ
それが如何言う事か?
理解出来るじやろうか?

結婚とは只好き合っている
だけでは成立せんのだ、
それ相応の義務を果さねば
ならん。

惣一郎と一緒に居たくば
それが何か良く考えるの
じゃ。

梁の軋む音が聞えるか?
これは音無家に一生を捧げた
女達の鳴き声:

男に奉仕する
女の喜びの鳴き声じゃ!

ほれ!

お前も
負けずに鳴いてみせろ

響子!



音無家の女は男に奉仕し、
男の為に生きるのが運命なのだ！



ワシの女ものとなれ響子！

惣一郎の嫁として
ワシに尽くし！

長男の嫁は音無の血筋を残す義務がある、
お前はワシの児を孕み強い遺伝子を残さ
ねばならんのじゃ！



だ 射精すぞ響子!

全て呑み干し
ワシの味を
記憶せよ!



大事な子種を吐き出すとは、教育が足りん様じゃな。

コラ!
漏らすでない!

やはり家内の換わりを勤めるにはまだまだ調教が必要じゃ

お義父さまはやく…早く解いてください！

もう我慢できません…も、漏れてしまいます…

お願いしますお義父さま！

ならぬ！

射精したモノを全て飲めと言ったはず、それを守らぬお前が悪い！

音無の女になりたくば耐えて見せよ！

この辛さを乗り越えてこそ家長への忠誠心が根付くと言うものよ！

ゴゴゴ…

もじ

もじ

もじ

どれ、ワシも協力してやるぞ。

二穴挿入でトドメを刺してやるわい。

アガアガ
れたら
今入



クワッ!

ズルル

嫌がっている割りにぐしょぐしょに濡れてすんなり受け入れたぞ。

ズチュ

フワッ

ワシとのまぐわいに慣れて来た証拠よ。

うそ…

そ、そんなこと…

体は正直じゃな
夫より数多く交わった男を
欲しがつとると言うことじゃ。

肉装が魔羅にねっとり絡みついて
良い具合にはぐれて
おるわい。

それにこのみごとな巨尻！
激しい抽挿を軽く受け止める
丈夫な骨盤はさぞ立派な児を
産めるじゃろう。

まさに理想の苗床
音無の女にふさわしい。

先代に負けぬ様に
しっかり勤めを果せよ！

ワシの児を孕んで
初めて音無の一員と
認められるのじゃぞ、
たっぷり仕込んでやるからな。

お腹ダメ…
おなか…もう…

今度こそ残さず全て
受け止めよ!

孕め響子!

二発目でこの濃さ、
我ながら良く出る

この女陰は男の精を
ほと
搾り取る沼の様じゃな
やはり惣一郎には
荷が重かるう。



お：お義父さま……
早く降ろして……
もう限界です。

我慢出来ません……
もう出ちやう
お願いします……
トイレに行かせて下さい。

もう限界か？
堪え性の無い奴め！

仕方ない今日は
ここまでじゃ。



漏らして部屋を汚されては
適わんからな。

溜まったモノを
全てひり出しすが良い

その樽にな！

なんじゃ、
不満か？

もうしばらく
我慢するか？

いっしえ
いっしえ
させいとせ。

かあさん
喜べやつと
お前の代わりが
出来たぞ。

年甲斐もなく
久方振りに昂ぶって
しまつとるよ。

惣一郎にも良い嫁を貰った
と褒めてやったわい。

惣一郎が帰って来る前に
仕込んでおくか？

さて、もう一発。

お前もそこで
見守っておれ。

この娘なら
お前の代わりに強い児を
産むじやろう。

まだ仕込み中じゃが
お前に似て調教し甲斐が
あるぞ、

緊縛姿も様になるし
抱き心地も最高の女
じゃよ

腹が空っぽになった
とここで
改めて種付けしてやる

音無家の血筋をお前に託すのじゃ
光栄に思い立派な男児を孕むの
じゃぞ。

ああ

はあ

代々紡いできた我が血筋に
お前の血を加えてやるのだ
喜べ響子！

はあ：

どうした？
もっと締め付けろ！
喜びの鳴咽を挙げる！

古ぼけて
煤けた天井

梁に残る
傷跡

音無として生き、
全てを捧げた女達の
血と汗と涙の証

私もこの沁みの一つに
成るの？
音無家に嫁ぐってこう言う
ことなの？

愛する人と一緒にいたい
只それだけなのに、
きつと彼女達も同じ思い
だっただろうに！

これは受け入れざる
運命なの？
教えて惣一郎さん！

あーあーあー

いつまでグズグズ
言っとる!

音無家の女であれば
少しは家長を喜ばせる
努力をしてみせろ!

我が家に身を埋める覚悟が
あるのなら態度で示せ!

ああっ!

自ら進んで腰を振り立て
ワシの玉袋が空になるまで
子種を搾り出してみろ!

膣肉でシゴキあげ
子袋にワシの精液を
迎え入れ孕んでこそ
音無の女じゃぞ!

やれば出来るではないか、
中々良い腰振りじゃぞ
音無の女がマグロでは
先祖に申し訳がたたん
からな。

シユホ!

シユホ!

「玉も磨かば光なし」と
言うが女も同じことよ
厳しく仕込んでやって
初めて真価を発揮する
ものじゃ。

亡き妻もこうして仕込んで
やったものじゃ

この体はもうお前だけの
モノではないと心得よ、
我が一族の為に使うモノ
だと知れ!

それが音無響子に
なると言う意味じゃ!

ワシの言うことに
素直に従っていれば
何も心配することは無い
全て問題ない。

判ったら返事をせい!

シユホ!

シユホ!

良い返事じゃ、
それでこそ音無の嫁じゃ。

これはワシとお前だけの
契約じゃ、惣一郎には
秘密のな。

ギ
ギ
ギ

お前は丈夫な跡取りを産み
この乳で育てればよいだけじゃ。
簡単なことよ

この腹に音無家の将来が
かかっておるのじゃ、
お前には強い男児を産んで貰わね
ば困る

お前が惣一郎との生活を
守りたい様に
ワシは音無の家を守り
たいだけなのじゃ

ギ
ギ
ギ



孕め、響子！

孕め！

孕め！

呪いの様なつぶやきが子宮を激しく揺さぶる度に体の奥深く突き刺さる

深く打ち込むペニスが頭の奥に消えない傷跡を刻み込む

音無

私もこの家の歴史に刻まれるのだろう！

まるであの柱に刻まれた傷の様に



その為に彼と結婚したんだ。

そうだ私もこの家の人間になるのだ！



音無響子として新しい歴史を刻む為に...

孕みます...

わたしお義父さまの... 音無の児を孕みます！

良くぞ
言った！
シカと
受け止めよ

私さえ我慢すれば
全てがうまくゆく
私と惣一郎さん…
そしてお義父とも
良い関係が築ける

お義父さま……

は、はい！

良い家族になる
はず…

響子くん？

そ、惣一郎さん！

きつと…



あとがき

La Maison vin trop jeune 5 お買い上げ頂きありがとうございます。

前作より少々時間が空いてしまいまして申し訳ありません。

いろいろと描きたい展開があったのですがうまく纏まらなくなってしまい時間がかかってしまいました。

音無家を厳格で古い因習が残る旧家として設定してその中に嵌まり込んでいく嫁と言う関係性がうまく描けていませんね..

それと原作漫画で語られていない惣一郎の死を何処にもって来るかも一番の悩み処でしたが今回でなんとかその寸前まで来た感じです。

さてどうやってめていこうかしら？

一応次回でこのシリーズは完結させますので宜しかったらお付き合いくださいませ。

猫御飯

La Maison vin trop jeune 5

2018/12/31

我 楽 多 屋
GARAKUTA-YA

猫御飯

NEKO MANMA

garakuktaya0@gmail.com

Printed by ねこのしっぽ

GARAKUTA-YA

